

〔萬葉集十八〕七夕歌一首并短歌

安麻泥良須可未能御代欲里夜洲能河波奈加爾敵太氏々牟可比太知蘇泥布利可波之伊吉能乎爾奈氣加須古良和多理母理布禰毛麻宇氣受波之太爾母和多之氏安良波曾能倍由母伊由伎和多良之略中

右七月七日仰見天漢大伴宿禰家持作之

〔古今和歌集四〕題 玄らす

久方のあまのかはらのわたし守君渡りなばかぢかくしてよ

〔古今和歌集九〕題 羁旅むさしの國と玄もつふさのくにとの中にある角田川のほとりにいたりて都のいと戀しうおぼえければ、玄ばし川のほとりにおりて思ひやれば、かぎりなくとをくもきにけるかなと、思わびてながめをるに、わたしもりはや船にのれ、日くれぬといひければ、舟にのりてわたらんとするに、みな人物わびしくて、京に思ふ人なくしもあらず、さるおりにしろき鳥のはしとあしとあかき川のほとりにあそびけり、京には見えぬ鳥成ければ、みな人みしらず、わたしもりに、これは何鳥ぞとひければ、これなん宮こどりといひけるをき、てよめる○歌

〔内裏名所百首〕戀志香須香渡

うしとも猶亥かすがの渡守玄るべもなみのよるべ玄らせよ歌抄作ゆくゑをしよ夫木和

〔拾玉集六〕百首句題

水郷朝霞

朝まだきよどのわたりのわたし守霞のそこに船よばふなり

〔夫木和歌抄二十六〕承久元年内裏御歌合渡紅葉みつのわたり

前大納言伊平卿

もみぢ葉のうつろふみつの渡もり風はゆき、にいとふのみかは

讀人玄らす